

鳥取県倉吉市方言



鳥取県方言区画図

【鳥取県の方言区画】鳥取県の方言は、米子市を中心とする西伯耆地方と、東伯耆地方以東とで大きく分かれる。前者の西伯耆地方は、島根県の出雲・隠岐方言とともに雲伯方言に属し、周囲の中国方言とは異なった特徴を持っている。一方、後者の東伯耆以東の地域は、山陽側と共通する特徴が多く、中国方言に属する。両方言の違いは音声・音韻面に顕著である。例えば、西伯耆方言では中舌母音の [ɲ] や [ɲɲ] が聞かれるが、東伯耆以東の方言では使用されない。また、「あります」が「アーマス」と発音されるようなラ行音節の長音化現象は、西伯耆方言には見られるが東伯耆以東では見られない。文法項目においても違いがあり、動詞「行く」の過去形が、西伯耆では「イキタ」のように非音便形だが、東伯耆以東では「イッタ」のような促音便形になる。また、原因・理由の接続助詞として西伯耆では「ケン」が、東伯耆以東では「ケ（一）」が使用されるといった違いもある。

さらに、倉吉市を中心とする東伯耆地方と、鳥取市を中心とする因幡地方の間にも方言差があるとされている。例えば、連母音 [ai] の融合に関して、東伯耆方言では [ja:] (ナガイ>ナギャー)、因幡方言では [e:] (ナガイ>ナゲー) とそれぞれ融合する傾向がある。また、動詞の尊敬形として、東伯耆方言では「シナル」のように「～ナル」の形を主に使用する（他の形も使用される）のに対して、因幡方言では「シンサル」のように「～ンサル」の形を主に使用する。語彙の面では、一人称代名詞に東伯

耆方言では「オレ」または「オラ」を使用するのに対して、因幡方言では「ウラ」を使用するといった違いがある。

【倉吉市方言について】倉吉市は、鳥取県中部地方の中心都市であり、方言区画の上は東伯耆方言に属する。音声面においては、西伯耆方言のような中舌母音はないが、「セ」「ゼ」がそれぞれ「シェ」「ジェ」と発音されるという特徴を持つ。

アクセントについては、「山」がずれる現象が特徴的である。「飴」「牛」といった第一類の名詞は単独で「低高」の音調をとるが、後に助詞だけでなく述語などが続いた場合も、高く発音する部分が後ろにずれていき、文が全体的に低平調で発音されるという特徴が知られている。

【表記について】調査によって得た用例は、基本的に表音的カタカナで表記するが、他の資料から引用したものに関しては、原典のまま表記する。

【調査概要】本稿の記述は、倉吉市で生育した、70歳代および80歳代1936年生まれ男性および1939年生まれ女性を対象とした面接調査にもとづく。また、一部先行研究の記述を参考にしている箇所がある。用例は、筆者が調査において得たものだけでなく、昔話資料や談話資料から得たものも含む。昔話資料については、倉吉市とその周辺の東伯耆地方で採集されたものを含む。

鳥取県倉吉市方言の活用表

《動詞》

| | | 多段一般型 書く | 多段特殊型 死ぬ | 一段型 見る | 来る | する |
|-------------|---------------|--------------------------------|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 終 止 類 | 断定非過去 | カク | シヌル | ミル | クル | スル |
| | 断定過去 | カイタ | シンダ | ミタ | キタ | シタ |
| | 命令 | カケ カキナイ カキナハイ カキンサイ | シネ | ミー ミナイ ミナハイ ミンサイ | コイ キナイ キナハイ キンサイ | セー シナイ シナハイ シンサイ |
| | 禁止 | カクナ カキナンナ | シヌナ | ミルナ ミナンナ | クルナ キナンナ | スルナ シナンナ |
| | 意志 | カカー | シナー | ミヨー | コー コヨー | ショー |
| | 推量 | カクダラー | シヌダラー シヌルダラー | ミルダラー | クルダラー | スルダラー |
| | 否定推量・ 否定勧誘 | カカマー | シナマー | ミマー | コマー | セマー |
| 接 続 類 | 連体非過去 | カク | シヌル | ミル | クル | スル |
| | 連体過去 | カイタ | シンダ | ミタ | キタ | シタ |
| | 中止 | カイテ | シンデ | ミテ | キテ | シテ |
| | 仮定 | カキヤ (一) カイタラ | シニヤ (一) シンダラ | ミリヤ (一) ミタラ | クリヤ (一) キタラ | スリヤ (一) シタラ |
| 派 生 類 | 否定 | カカン | シナン | ミン | コン | セン |
| | とりたて否定 | カカヘン | シナヘン | ミラヘン | クラヘン | スラヘン |
| | 丁寧 | カキマス | シニマス | ミマス | キマス | シマス |
| | 使役 | カカセル | シナセル | ミサセル | コサセル | サセル |
| | 受身 | カカレル | シナレル | ミラレル | コラレル | サレル △シラレル △スラレル |
| | 可能 | カケル カケレル カカレル | シネル | ミレル ミラレル | コレル コラレル | △シラレル △スラレル 《デキル》 |
| | 尊敬 | カカレル カキナル カキナハル カキナンス | シナレル シンナル | ミラレル ミナル ミナハル ミナンス | コラレル キナル キナハル キナンス | サレル シナル シナハル シナンス |
| | 継続 | カキヨル カイトル | シニヨル シンドル | ミヨル ミトル | キヨル キトル | シヨル シトル |
| | 希望 | カキタイ | シニタイ | ミタイ | キタイ | シタイ |
| | のだ | カクダ | イヌルダ | ミルダ | クルダ | スルダ |

多段型動詞の基幹音便形

| 語幹末子音 | 語例 | 活用形例(過去形) | 作り方 |
|-------|------------|--------------|--|
| k | 書く kak・u | カイ-タ | kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。 |
| g | 嗅ぐ kag・u | カイ-ダ | gをiにする。-タが-ダになる。 |
| s | 出す das・u | ダイ-タ | sをiにする。「貸す」など動詞によっては音便形を用いず、基幹イ段形を用いる。 |
| t/c | 立つ tac・u | タッ-タ | t/cをQ(促音)にする。 |
| n | 死ぬ sin・u | シン-ダ | nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 |
| b | 飛ぶ tob・u | トン-ダ | bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 |
| m | 飲む nom・u | ノン-ダ | mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 |
| r | 切る kir・u | キッ-タ | rをQ(促音)にする。 |
| w/ø | 買う ka(w)・u | カッ-タ カー-タ | wをQ(促音)あるいはR(長音)にする。 |

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

| | | 赤い | 静か(だ) | 学生(だ) |
|-----|-------|---------------------------|------------------|--------------------|
| 終止類 | 断定非過去 | アカイ | シズカダ シズカナ | ガクセーダ |
| | 断定過去 | アカカッタ | シズカダッタ | ガクセーダッタ |
| | 推量 | アカイダラー | シズカダラー | ガクセーダラー |
| 接続類 | 連体非過去 | アカイ | シズカナ | 《ガクセーノ》 |
| | 連体過去 | アカカッタ | シズカダッタ | ガクセーダッタ |
| | 中止 | アカ(ー)テ アカクテ | シズカデ | ガクセーデ |
| | 仮定 | アカケリヤ | シズカナラ シズカダッタラ | ガクセーナラ ガクセーダッタラ |
| 派生類 | 否定 | アカ(ー)ナイ アカクナイ | シズカデナイ シズカダナイ | ガクセーデナイ ガクセーダナイ |
| | なる | アカ(ー)ナル アカンナル アカクナル | シズカンナル | ガクセーンナル |
| | 丁寧 | アカイデス | シズカデス | ガクセーデス |
| | のだ | アカイダ | シズカダ | ガクセーダ |

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型にはa類のうち「書く」・「居る」類、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ段の4形、および、音便形がある。融合によってア段拗音となることもある。「カク」(書く)の場合、カカ-ン(kak-a-N)、

カキ-タイ(kak-i-tai)、カク(kak-u)、カケ(kak-e)、カイ-タ(kai-ta)、カキヤー(kak-jaR)など。また、語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。語例は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

多段型の特殊なものとして、語幹末がn(ナ行)の「シヌル」(死ぬ)と「イヌル」(去る)がある。「書く」などを多段一般型とするのに対し、この2語を多段特殊型とする。「シヌル」を例にすると、否

定形シナ-ン (sin-a-N)、希望形シニ-タイ (sin-i-tai)、断定非過去形・連体非過去形シ-ヌ (sin-u) など、多くは多段一般型と同じ活用形となるが、断定非過去形・連体非過去形シヌ-ル (sin-u-ru) とそれがベースになる推量形シヌ-ル=ダラー (sin-u-ru=daraR) で、ウ段形シ-ヌ (sin-u) にラ行で始まる接辞が付く形が現れる。古典語の「ナ行変格活用」の特徴を持つと言える。

一段型には、ミ-ル (mi-ru)、オキ-ル (oki-ru) など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル (ne-ru)、アケ-ル (ake-ru) など基幹がエ段の動詞がある。一段型の活用形のうち、多段型の r 語幹動詞に対応した形は、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ-ル (mi-ru)、仮定形ミ-リヤー (mi-rjaR)、とりたて否定形ミ-ラセン (mi-raseN)、受身・可能・尊敬形ミ-ラレル (mi-rareru)、可能形ミ-レル (mi-rueru) であり、この方言の r 語幹化の進行度合いは共通語と同程度か少し進んでいると言える。

不規則な活用をする動詞として、「クル」(来る)、「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ (k-i-ta)、ク-ル (k-u-ru)、コ-ン (k-o-N) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。「スル」は、サ-レル (s-a-rueru)、シ-タ (s-i-ta)、ス-ル (s-u-ru)、セ- (s-e-R) のように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の4段にわたる。また、ショー (s-joR) のように融合によりオ段拗音となることもある。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段一般型動詞は「カク」のように基幹ウ段形となる。多段特殊型動詞は「ウ段形+ル」の「シヌル」「イヌル」という形をとる。一段型動詞は「ミル」「ネル」のように「基幹(=語幹)+ル」、「来る」「する」は「基幹ウ段形+ル」で「クル」「スル」となる。なお、「ル」で終わる形に終助詞などが続く場合、「クツ」のように「ル」が促音化することがある。

- ・シバラクノ アイダ ココニ オルケー。(しばらくの間、ここにいるから。)
- ・アサマ トーカラ テレビ ミルワイ。(朝早くからテレビを見るよ)

- ・モー イヌルケナー。(もう帰るからね。)
- ・おれの嫁さんになってごす人が死んだなら、おれもいっしょに死ぬる。(おれの嫁さんになってくれる人が死んだなら、おれも一緒に死ぬ。)[酒井「蛇婿」]
- ・モチト シタラ クツ。(もうちょっとしたら来るぞ。)
- ・アサマ トーカラ シゴト スル。(朝早くから仕事をする。)
- ・タンキダイガクチューノガ アッダニ。(短期大学というのがあるんだよ。)

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。

- ・モー ネンガジョー カイタジェ。(もう年賀状を書いたよ。)
- ・ばあさんや、ばあさんや、おれは、ええ夢を見た。(ばあさんや、ばあさんや、おれは、いい夢を見た。)[鳥取「天福と地福」]
- ・タイフーガ キタ。(台風が来た。)
- ・ソコノ イロリノ マエデ カタツタリ シタダケドネ。(そこの囲炉裏の前で語ったりしたんだけどね。)

多段型動詞のうち、語幹末が w のものは、「カッタ」のような促音形をとる場合と「カー-タ」のような長音形をとる場合がある。促音形のほうが優勢で、長音形をとるか否かは動詞によって異なるようである。また、語幹末が s のものは、「ダイタ」(出した)のように音便形をとるものと、「カシタ」(貸した)のようにイ段形をとるものがある。

- ・キノー ナシ {カッタジェ/カータジェ}。(昨日梨を買ったよ。)
- ・アカチャンガ {ワラツタ/ワラータ}。(赤ちゃんが笑った。)
- ・アノヒトニワ キョネンワ ネンガジョー ダイタナー。(あの人には去年は年賀状を出したなあ。)
- ・センタクモノ {ホシタ/ホイタ}。(洗濯物を干した。)
- ・ハナコニ ホンオ {カシタ/カイタ}。(花子に本を貸した。)

〈命令形〉

命令形には2つあり、1つはぞんざいな命令形である。多段型動詞は「カケ」「シネ」のようにエ段形、一段型動詞は「ミー」「タペー」のように基幹(=語幹)の長音形、「来る」はオ段基幹に「イ」を後接して「コイ」、「する」はエ段長音形の「セー(シェー)」となる。命令形には、しばしば「イヤ」が後接する。

- ・何しとるだいや。はや、行けいや。(何をしているんだ。早く行けよ。)[森田 2013]
- ・おかあさんがせつないけえ、はよう来てごせえ。(お母さんが苦しいから、早く来てくれ。)[鳥取「スズメとキツツキ」]
- ・へふりじいだあ。そんならひとつへをふってみいな。(屁ふり爺だと。それならひとつ屁をこいてみろよ。)[鳥取「へふりじいさん」]
- ・コッチ コイヤ。(こっちに來いよ。)
- ・ハヤコト シェイヤ。(早くしろよ。)

もう1つは尊敬形の命令形で、「～ナイ」「～ナハイ」「～ンサイ」といった形をとる。現在はそのうち「～ナイ」が一般的で、「～ナハイ」はかつて使用されていたが、最近はあまり使用しないようである(「～ナンセ」という形もあるが、やはり現在ではあまり使われないようである)。また、「～ンサイ」は、「使わなくはないが、どちらかというときよその地域のことば」という意識が強いようである。「ナハレ」のようにエ段形をとる用例も一部見られるが、現在は「イ」で終わるのが一般的のようである。なお、多段特殊型動詞「死ぬ」については、運用上の問題で尊敬形の用例が得られなかったため、次の禁止形も含めて、冒頭の表にはこの形を載せていない。

- ・ハヤ オキナイナ。(早く起きなさいな。)
- ・ソガナ キタナイ ジ カカン ヤーニ モット レンシュー シナイナ。(そんな汚い字を書かないように、もっと練習しなさいな。)
- ・なんと、なんぞかんぞちゆうむのをごしなはいな。(なんと、なんとかかんとかというものをくださいな。)[鳥取「福がついたおとつあん」]
- ・モッテ インナハレ。(持って帰りなさい。)[国分寺]
- ・チョット ヌックリ ヤスミンサイナ。(ちょ

っとゆっくり休みなさいな。)

- ・ま、それなら、任せなんせ、おれに。(ま、それなら、任せなさい、おれに。)[酒井「禅問答」]

〈禁止形〉

非過去形に「ナ」を後接する。「ミル」「スル」のように非過去形の末尾が「ル」になる場合、「ミンナ」「スンナ」のように「ル」が撥音化することがある。また、尊敬形の場合、「～ナンナ」の形になる。

- ・コッチ ミルナイ。(こっちを見るなよ。)
- ・コッチ クンナ。(こっちへ来るな。)
- ・コッチ キナンナイナ。(こっちへ来なざるな。)
- ・人が来ても、戸を開けなんなよ。(人が来ても、戸を開けなざるなよ。)[川上「瓜姫」]

〈意志形〉

多段型動詞は、「カカー」「シナー」のようにア段基幹の長音形をとる。一段型動詞は「ミヨー」のように基幹(=語幹)に「ヨー」が後接した形をとり、通常は「ミヨー」のように融合する。「来る」も同様に「コヨー」という形をとるが、オ段基幹長音形の「コー」という形もある。「する」は「ショー」という形をとるが、これはイ段基幹に「ヨー」が後接した形「ショー」がもとになっていると考えられる。

- ・天福だあ、なんて言ようつたが、きょうは、どんな話をするだらあか聞きに行かあ。(天福だあ、なんて言っていたが、今日はどんな話をするだろうか聞きに行こう。)[鳥取「天福と地福」]
- ・タンボノ イネカリシ ショーカト オモツタラ クイアラサレトルデ(田んぼの稲刈りをしようかと思ったら食い荒らされているから)

また、しばしば「カ」「ジェ」「イヤ」などの終助詞と共起して、勧誘を表すこともある。

- ・アー ナラ マー スズマーカイ。(ああ、それではまあ涼もうか。)[国分寺]
- ・オイ ソロソロ イナイヤ。(おい、そろそろ帰ろうよ。)
- ・シットル ヒトガ テレビン デナハルケー ミョイヤ。(知っている人がテレビに出られるから見ようよ。)
- ・アシタモ イッショニ ココン コーカイヤ。

(明日も一緒にここに来ようか。)

- ・アシタモ ココン コヨイナ。(明日もここに来ような。)

〈推量形〉

断定非過去形に「ダラー」を後接する。また、断定過去形に「ダラー」を後接することで過去の否定を表す。多段特殊型動詞においては、「シヌルダラー」だけでなく、多段一般型と同様の「シヌダラー」の形もとる。また、「アラー」(ある)のように、意志形と同形で推量の意味を表す例も見られるが、古い言い方のようである。

- ・モーチト シタラ アメガ フッダラーゾイ。
(もうちょっとしたら雨が降るだろうよ。)
- ・モージキ シヌダラーナ。(もうじき死ぬだろうな。)
- ・おれに、あがなうまい山イモを食わせたが、こいつは、どっだけうまいところばかり食つとるだらあか。腹ん中あ、しらべてみたらあかなあ。(俺に、あんなうまい山芋を食わせたが、こいつは、どれだけうまいところばかり食べているだろうか。腹の中を調べてみてやろうかなあ。)[鳥取「オトキタカ」]
- ・モー ソロソロ オキテクッダラーナー。(もうそろそろ起きてくるだろうな。)
- ・タイシテ エットモ ナイケド マー フタツ ミツモ アラゾイナ。(そうたくさんもないけれど、まあふたつみつつもあるでしょうよ。)[国分寺]

〈否定推量・否定勧誘形〉

否定形と同じ形の基幹に「マー」を後接することで、否定推量形ができる。すなわち、多段型動詞の場合、ア段形に「マー」を後接して「カカマー」のような形をとる。一段型動詞の場合、基幹に「マー」を後接して「ミマー」のようになる。「来る」の場合は「コ」、「する」の場合は「セ」に「マー」を後接して「コマー」「セマー」となる。

上述のとおり、この形は否定推量を表し、「否定形+推量形」の「ンダラー」とほぼ同じ意味を表す。例えば「書く」の場合、否定推量形の「カカマー」と「否定形+推量形」の「カカンダラー」はほぼ同じ意味を表す。

- ・モー キョーワ フラマージェ。(もう今日は

降らないだろうよ。)

- ・ソガナ ムツカシー モン トッテモ ヨママーゼ。(そんな難しいもの、とても読まないだろうよ。)
- ・アノヒトワ ニドト チコクワ セマージェ。
(あの人は二度と遅刻はしないだろうよ。)
- ・イマ イッテモ オンナラマージェ。(今行ってもいらっしゃらないだろうよ。)

また、この形はしばしば終助詞「ゼ(ジェ)」「イヤ」などと共起して、「～しないようにしましょう」という否定勧誘も表す(上記の例からもわかるように、「ジェ」と共起して否定推量を表すこともある)。ただし、あくまで聞き手に対する勧誘であって、終助詞が共起しない場合も、話し手の否定意志を表す際には使用されないようである。

- ・モー ネナ イケンケ テレビワ ミマーデ。
(もう寝ないといけないから、テレビは見ないでおこう。)
- ・アスコニワ モー イカマイヤ。(あそこにはもう行かないようにしましょう。)

なお、「マー」が接続する形について、森田(2013)に挙げられている例の中には、筆者が行った調査とは異なるものがある。例えば、「来る」の場合、森田(2013)では以下のように「キマアゼ」となっているが、筆者の行った調査では、この形は言わないと回答された。現代標準語の「まい」と同様に、接続する形にゆれがあると考えられる。

- ・もうやあこがな所には来(き)まあぜ。写真に撮りたいやな所はあませんが。(もうこんな所には来ないことにしような。写真に撮りたいような所はないじゃないか。)[森田 2013]

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、「カク」「シヌル」「ミル」「クル」「スル」のようになる。

- ・チャント フデデ カク ヒトモ アルケドナ。(ちゃんと筆で書く人もいるけどな。)
- ・テレビ ミツトキヤー モット ハナレイヤ。
(テレビを見るときはもっと離れるよ。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、多段型動詞の音便語幹、一段型動詞の基幹(=語幹)、「来る」「する」のイ段基幹に「タ」を後接する。

- ・ナンデダラーカ エニ カイタ モンガ デル ハズ ナイニ。(なぜだろうか、絵に描いたものが出るはずがないのに。)
- ・テレビオ ミタ ヒトカラ デンワガ アッタ。(テレビを見た人から電話があった。)

〈中止形〉

多段型動詞の音便語幹、一段型動詞の基幹(=語幹)、「来る」「する」のイ段基幹に「テ」を後接する。多段型動詞の音便語幹の形については、過去形と同様である。

- ・やあれ、こりゃあえらいこった。はやあいんで、だんなさんに言わにゃあならん。(わあ、これは大変なことだ。早く帰って、旦那さんに言わなければならない。)[鳥取「長い長い名まえ」]
- ・コノ ジワナー タローガ カイテ コッチノ エワナ ハナコガ カイタダデ。(この字はな、太郎が書いて、こっちの絵はな、花子が描いたんだよ。)
- ・ミンナガ シアン シテ カエッテイッタ。(みんなが思案して帰っていった。)

〈仮定形〉

仮定形には2種類あり、「バ」に由来する形と「タラ」がつく形がある。前者の形は、多段型動詞の場合、拗音ア段基幹(およびその長音形)になり、一段型動詞、「来る」「する」には基幹に「リヤ(一)」を後接する。

- ・この畑うってごすむんが、ありやなあ。うちにゃあ、三人の女の子があるけ、ひとりよめにやるに。(この畑を耕してくれる者がいたらなあ。うちには、3人の女の子がいるから、1人嫁にやるのに。)[鳥取「親孝行なむすめ」]
- ・ニジニ オキリヤ マニアウヨ。(2時に起きれば間に合うよ。)
- ・タローガ クリヤ ミンナガ ホタエル。(太郎が来ればみんなが喜ぶ。)
- ・そっでなあ、人のまねをすりやあなあ、しりをそがれるっていうだって。(それでな、人の真似をすればな、尻を削がれるっていうんだって。)[鳥取「へふりじいさん」]

2つめの形は「タラ」が後接する形で、多段型動詞の基幹音便形および一段型動詞の基幹、「来る」の

基幹「キ」、「する」の基幹「シ」に「タラ」を後接する。

- ・オッサンガ コレ カイタラ デシ ヤニ ナッタタッチューノガ モノガタリデス。(おじさんがこれを描いたら出なくなったというのが物語です。)
- ・ソッデ ジッサイニ ミタラ アナガ アイトルワケダネ。(それで、実際に見たら穴が空いているわけだね。)
- ・あの子が来たら、取れても取れえでも、毎日、虫を三びき取って、二ひきは仏さんにすえて、一びきは自分が食って(あの子が来たら、取れても取れなくても、毎日虫を3匹取って、2匹は仏様に供えて、1匹は自分が食べて)[鳥取「スズメとキツツキ」]
- ・モーチト シタラ アメガ フッダラーゾイ。(もうちょっとしたら雨が降るだろうよ。)

〈否定形〉

多段型動詞はア段基幹に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はそれぞれ「コ」「セ」に「ン」を後接する。

- ・サイキンワ ネンガジョー カカン ヤーニ ナッタ。(最近は年賀状を書かなくなった。)
 - ・アノ シトワ マンダ イナンダカエ。(あの人はまだ帰らないのか。)
 - ・マー コドモワ アンマリ コンケドネ。(まあ子供はあまり来ないけどね。)
 - ・もう悪ことあせんけえ、もどいてごしえ。(もう悪いことはしないから、戻してくれ。)[酒井「似せ本尊」]
- また、否定形の過去形は「カカナンダ」のような「ナンダ」の形と、「カカンカッタ」のような「ンカッタ」の形がある。後者は比較的新しいようである。
- ・アナガ アイトル リューワ コドモニ オシエナンダケドネ。(穴が空いている理由は子供に教えなかったけどね。)
 - ・キョネンワ ネンガジョー カカンカッタ。(去年は年賀状を書かなかった。)

前述したように、推量形は「ダラー」を後接した形や、「マー」の形をとる。その他、「カカデ」のように「デ」を用いた中止形もある。

- ・うちはあんたの先輩だに、何の役にも立たで

- すまんなあ。(私はあなたの先輩なのに、何の役にも立たないで悪いわねえ。)[森田 2013]
- ああ、料理は仕出屋から取るか。うちは準備せえでもええだな？(ああ、料理は仕出屋から取るの。うちは準備しなくてもいいのね？)[森田 2013]

〈とりたて否定形〉

「しはしない」に由来し、強く否定する形として、とりたて否定形がある。多段型動詞のア段基幹(長音の場合もある)に「ヘン」(文献には「セン」の形も現れている)を後接し、一段型動詞の基幹、「来る」の「ク」、「する」の「ス」に「ラヘン」を後接する。

- コンナ ジカンニ イッタッテ オラーヘン ワイナ。(こんな時間に行ったっていはしないよ。)
- コノキンギョウ ゲンキナケー チョットヤソットジャ シナーヘンケー。(この金魚は元気だから、ちょっとやさっとじゃ死にはしないから。)
- ナンボ オコシテモ オキラヘン。(いくら起こしても起きはしない。)
- モー クラヘンダラージェ。(もう来はしないだろうよ。)
- この雪じゃバスはととも走らせんぜ。(この雪じゃバスはととも走らないよ。)[森田 2013]

〈丁寧形〉

多段型動詞・「来る」「する」の基幹イ段形、一段型動詞の基幹(=語幹)に「マス」を後接する。丁寧形自体は、「マシタ」(過去形)、「マシテ」(中止形)、「マセン」(否定形)、「マショー」(意志形)のように活用する。

- ジョシエーノ バーイワ ソーユー コトバワ ツカワナイト オモイマス。(女性の場合はそういうことばは使わないと思います。)
- そがしたら運のええ長生きすられる人になられますけえなあ。(そうすれば運のいい長生きできる人になられますからね。)[鳥取「長い長い名まえ」]
- コドモノ ジダイワネー モー ホタル イッパイ イマシタカラ (子供のころはね、もう蛍がいっぱいいましたから)
- カラダ ヨー ナリマシテ (体調がよくなり

まして)

- イマワ ホタルワネー ソンナ トラレマセンケドネー。(今は蛍はね、そんなに取れませんがね。)
- ソレワ ワタシガ カカセテ イタダキマショーカ。(それは私が書かせていただきましたよ。)

〈使役形〉

多段型動詞の基幹ア段形および「する」の基幹「サ」に「セル」を後接し、一段型動詞の基幹および「来る」の基幹「コ」に「サセル」を後接する。使役形自体は一段型動詞と同様に活用するが、過去形など一部の活用形において、「サセル」ではなく多段型活用の「サス」に由来すると考えられる形が使用されることがある。例えば、過去形では「サセタ」と「サシタ」の2つの形があり、前者は一段型、後者は多段型である。

- 「なんとまあ、こん夜ひとようさ、とまらしてごしなはらんか。」(なんとまあ、今夜一晩、泊まらせてくださらないか。)[鳥取「福がついたおとつあん」]
- そがしょうむんなら、とまらしてひんぜるわい。(そうするのなら、泊まらせてあげるよ。)[鳥取「福がついたおとつあん」]
- ココニ コサシエツケ チョット マットツテーナ。(ここに来させるから、ちょっと待っていてね。)

〈受身形〉

多段型動詞および「する」の基幹ア段形に「レル」を後接し、一段型動詞の基幹および「来る」の基幹「コ」に「ラレル」を後接する。受身形自体は一段型動詞と同様に活用する。「する」については、「サレル」だけでなく「シラレル」の形も一部見られるが、現在ではあまり一般的ではないようである。また、受身形自体は一段型動詞と同様の活用をする。

- アソコノ コニ マジックデ エー カカレテナー。(あそこの子にマジックで絵をかかれてな。)
- ヒンガ ワリー トコオ ミラレチャッタ。(恥ずかしいところを見られてしまった。)
- ボクガ コドモノ トキモ アニッカラ オシエラレタリ ショウタケネ。(僕が子供の

ときも兄貴から教えられたりしていたからね。)

- ・イタズラオ サレン ヤーニ ナッタ。(いたずらをされなくなった。)
- ・マー キツネニ ダマサレタ キツネニ ドガニ シラレタ チャナ コター (まあ狐にだまされた、狐にどんなにされたというようなことは) [国分寺]

〈可能形〉

多段型動詞の場合、「カカレル」のようにア段形に「レル」を後接した受身形と同じ形、「カケル」のようにエ段形に「ル」を後接した可能動詞の形、そして「カケレル」のように、エ段形に「レル」を後接した、両者の混交形と考えられる形がある。なお、多段特殊型動詞も「シネル」「シネレル」「シナレル」といった形があることが予想されるが、当該形式の使用自体が稀なこともあり、本調査では「シネル」の形しか得られていない。一段型動詞の場合は、「ミラレル」のような、基幹に「ラレル」を後接した形と、「ミレル」のような、基幹に「レル」を後接した形がある。「来る」も同様に、基幹「コ」に「ラレル」「レル」をそれぞれ後接した「コラレル」と「コレル」がある。「する」の場合、基本的に「デキル」が補的に使用される。「スラレル」という形もあるようだが、古い形と思われる。以上の諸形式は、いずれも能力可能と状況可能のどちらでも使用される。ただ、多段型動詞のア段形接続の形（「カカレル」など）および、一段型動詞・「来る」・「する」に「ラレル」が接続する形は、「カカレン」のように否定形で、主に禁止の行為指示表現として使用される傾向がある。これらはすべて一段型動詞と同様に活用する。

- ・コノ コワ コガナ ムツカシー ジガ {カケル/カケレル} ダジェ。(この子はこんなに難しい字が書けるんだよ。)
- ・神さんは、天福だって言われたに、これは地から出てきたけえ、地福だけえ、取られん。神さまのもんだけえ、取られん。(神様は、天福だっておっしゃったが、これは地から出てきたから、地福だから取れない。神様のものだから取れない。)[鳥取「天福と地福」]
- ・ウチノ コワ ピーマンガ {クエン/クエレン} ケナー。(うちの子はピーマンが食べ

られないからな。)

- ・コノ エーガワ エキマエデ {ミラレル/ミレル} ジェ。(この映画は駅前で見られるよ。)
- ・アッチワ アブナイケー イカレンジェ。(あつちは危ないから行けない(行ってはだめだよ。))
- ・オレワ ノミタイケド イマワ ノマレンダ。(おれは飲みたいけど今は飲めないんだ。)

これに加えて、否定のみで使用される形式として、「ヨーカカン」「ヨーセン」のような「ヨー+否定形」がある。この形は主として能力可能および心情可能で使用される。

- ・コノ コワ マンダ ソガナ ムツカシー ジワ ヨー カカンワイナ。(この子はまだそんな難しい字は書けないよ。)
- ・メキョーワ エンピツ モットランケ ヨー カカンワ。(今日は鉛筆を持っていないから書けないよ。)
- ・メンキョーワ モットルケドモ ウンテンワ ヨー セン。(免許は持っているけれども、運転はできない。)
- ・メクルマガ チョーシ ワルイケ キョーワ ウンテン ヨー セン。(車が調子が悪いから、今日は運転できない。)

〈尊敬形〉

主に使用されるのは2種類ある。1つは「(ラ)レル」を後接する形で、もう1つは「ナル」を後接する形である。前者は、多段型動詞の基幹ア段形および「する」の基幹「サ」に「レル」を後接し、一段型動詞の基幹および「来る」の基幹「コ」に「ラレル」を後接する（「する」については「スラレル」の用例も見られるが、古い言い方のようなのである）。「(ラ)レル」自体は一段型動詞と同様に活用する。

- ・ダイジナ シェンシェガ オラレルケナ。(大事な先生がいらっしゃるからな。)
- ・ドナタガ コラレルデスカ。(どなたが来られるんですか。)
- ・コトバノ ケンキュー シトラレタラ ソーユー ムカシノ ジョーキョート ユーノモ イロイロト キカレルワケデスヨネ。(ことばの研究をなさっていたら、そういう

昔の状況というの、いろいろとお聞きになるわけですね。)

- なんちゅうことをすられっだらあかい。酒桶の裁判ちゅうむなあ、どがなむんだらあ。(なんということをするのだろうか。酒桶の裁判というものは、どんなものだろう。)[鳥取「酒桶裁判」]

後者の形は、一段型動詞の基幹および多段一般型動詞、「来る」「する」の基幹イ段形に「ナル」を後接する。多段型動詞およびそれに類する派生形のうち、語幹末がnおよびrのものは「シンナル」のように直前が撥音化する。「ナル」自体は多段一般型動詞と同様に活用する。

- 毎晩、その家へ、ようすをぬすみ聞きに行きなるだつて。[鳥取「天福と地福」]
- 正直で働き者で、お金も持っとんなるし、お米もあるしで、楽にくらしとんなつた。(正直で働き者で、お金も持っていらっしゃるし、お米もあるしで、楽に暮らしていらっしゃつた。)[鳥取「天福と地福」]
- サイキンノ ワカイ ヒトワ ネンガジョー カキナランデ ナイカ。(最近の若い人は年賀状を書かれないのではないか。)
- センセーガ キナツタ。(先生がいらっしゃつた。)

また、他にも「ナハル」「ナンス」「ンサル」といった形も存在するが、上記2形に比べるとあまり使用頻度は高くないようである。話者によると、特に「ナハル」と「ナンス」については、「昔は使っていた」という。

- むかしむかし、へふりじいさんが、竹やぶに竹切りに行きなはつたつて。(昔々、へふりじいさんが、竹やぶに竹を切りに行かれたと。)[鳥取「へふりじいさん」]
- 山のおくの方に住んどんなはるおつあんが、町に買い物に出なはつただつて。(山の奥のほうに住んでいらっしゃるおじさんが、町に買い物に出られたんだつて。)[鳥取「メラメラおばけ」]
- シェンシェワ マイアサ ニューズ ミトン ナンス。(先生は毎朝ニュースをご覧になっている。)

- あれ、みんなそろつて、今日はどこ、行きんさる? (あれ、みんなそろつて、今日どこへいらっしゃるの?) [森田 2013]

〈継続形〉

「ヨル」形と「トル」形の2種類がある。「ヨル」形は、多段型動詞・「来る」・「する」の基幹イ段形および、一段型動詞の基幹に後接する。「カキヨル」「ミヨル」のような形をとるが、「カキヨール」のように「ヨル」が長音化したり、「ミョール」のように拗音化したりすることがある。あるいは、「ヨル」ではなく「オル」が接続した「カキオル」のような形で現れることもある。一方、「トル」形は多段型動詞の基幹音便形、「来る」・「する」の基幹イ段形および、一段型動詞の基幹に後接する。また、「ヨル」「トル」どちらの形も、多段一般型動詞と同様に活用する。そして、「ヨル」形は動作の進行を表すが、「トル」形は動作の進行と結果継続の両方を表す。

- タローガ イマ テガミオ {カキヨール / カイトル}。(太郎が今手紙を書いている。)
- ハナコガ テレビ {ミヨツ / ミトツ}。(花子がテレビを見ているぞ。)
- ソガニーニ ショーツラ オッサンガ キテネ (そんなふうにしていたら、おじさんが来てね)
- ウチワ アノ ヤニオ クオータ ジュー。(私はあのやにを食べていたぜえ。)[大橋 1989]

〈希望形〉

多段型動詞・「来る」・「する」の基幹イ段形および、一段型動詞の基幹に「タイ」を後接する。「タイ」には二重母音[ai]が含まれているため、これが融合して「チャー」となることがある。希望形自体は、形容詞と同様に活用する。

- タマニワ フデデ カキタイナー。(たまには筆で書きたいな。)
- オレ ヤクーガ ミチャーワイ。(俺は野球が見たいよ。)
- いや、おかしいちゅうこたあないけど、何だか笑いたんなつた。(いや、おかしいということはないけど、なんだか笑いたくなつた。)[酒井「小僧の作戦」]

〈のだ形〉

断定形に「ダ」を後接する。標準語との接触によって「ン」が間に入った「ンダ」の形も見られるが、基本的には「ダ」のみが後接する。この「ダ」は名詞述語の「ダ」であり、それと同様に活用する。

- ・ああ、そがにして入るだか。(ああ、そうやって入るのか。)[稲田「かや知らず」]
- ・キョーワ イヌルダカ。(今日は帰るのか。)
- ・ソッカラ ハナシガ デタデ ナイカナートオモツテ。(そこから話が出たのではないかなと思って。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の方は一つである。本方言においては、中止形・否定形・なる形において「アカ-イ」が「アコ-ナル」になるような交替語幹はなく、「アカ(一)」のように語幹とその長音形か、語幹に「ク」を後接した「アカク」のような形をとる。

〈断定非過去形〉

連体非過去形と同形で、語幹に「イ」を後接する。

- ・コノ トマトワ アカイ。(このトマトは赤い。)

〈断定過去形〉

連体過去形と同形で、語幹に「カッタ」を後接する。

- ・キノー カッタ トマトワ アカカッタ。(昨日買ったトマトは赤かった。)

〈推量形〉

断定形に「ダラー」を後接する。過去形に「ダラー」を後接することで、過去の否定を表す。

- ・コノ トマトワ ナカミモ アカイダラー。
- ・フデデ カイタ ホーガ エーダラーケドナー。(筆で書いたほうがいいだろうけどな。)
- ・モドンナアツカー。 アツカッタダラーナー。(お帰りなさいましたか。暑かったでしょうね。)[国分寺]

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、語幹に「イ」を後接する。

- ・ナルベク アカイ トマトオ カウ。(なるべく赤いトマトを買う。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、語幹に「カッタ」を後接する。

- ・キノーマデ アカカッタ ミガ クロク ナツチャッタ。(昨日まで赤かった実が黒くなってしまった。)

〈中止形〉

語幹に「テ」を後接して「アカテ」のようになる。「アカーテ」のように長音になることもある。また、「アカクテ」のような語幹に「クテ」を後接した形も一部ある。

- ・すまんけど、この手紙、読んでごしない。字がこまて読めんじ。(わるいけど、この手紙、読んでちょうだい。字が小さくて読めないのよ。)[森田 2013]
- ・美代ちゃん、ちょっとこの皮、噛んでみない。硬あて、とても噛めまあが？(美代ちゃん、ちょっとこの皮、噛んでごらんないさい。硬くて、とても噛めないでしょう？)[森田 2013]
- ・コノ トマトワ アカクテ ウマゲナナー。(このトマトは赤くてうまそうだな。)

〈仮定形〉

語幹に「ケリヤ」を後接する。「ケリヤー」のように長音で実現したり、「ケラ」のように直音で実現したりすることもある。

- ・モー チョット アカケラ ウマイダラーナ。(もうちょっと赤ければうまいだろうな。)
- ・うちに、トラっていう大きな犬がかあてあるけ、その犬をかしてあげるけえ。お化けが出るっていって、おっさんも住んどなはらんだに、きょうとけりやあ、トラをかしたげるけえ。(うちに、トラという大きな犬を飼ってあるから、その犬を貸してあげるから。お化けが出ると言って、おじさんもお住まいでないから、怖ければトラを貸してあげるから。)[鳥取「メラメラおばけ」]

〈否定形〉

語幹およびその長音形、もしくは「語幹+ク」の形に「ナイ」を後接し、「アカナイ」「アカクナイ」のようになる。次のなる形もおおむね同様の形をとるが、否定形はなる形に比べて「語幹+ク」の形をとる傾向があるようである。

- ・マンダ ミガ アカーナイケー トレン。(まだ実が赤くないから取れない。)

- ・ウチノ カー ソンナニ タカクナイゾイヤ。
(うちの子はそんなに背が高くないよ。)

〈なる形〉

語幹およびその長音形、もしくは「語幹+ク」の形をとる。否定形もおおむね同様の形をとるが、なる形は否定形に比べて「語幹+ク」の形をとらない傾向があるようである。また、語幹に「ニ」あるいは「ン」を後接して「オーキニ ナル」「オーキン ナル」といった形をとることもある。

- ・モー チョット シタラ ミガ アカーナル。
(もうちょっとしたら実が赤くなる。)
- ・もめんがなあなっちゃったに、もめん買わにももめんはなし。(木綿がなくなってしまったよ、木綿を買おうにも木綿はなし。)[鳥取「酒桶裁判」]
- ・ヨソノ コワ スグ オーキンナル。(よその子はすぐ大きくなる。)
- ・こりゃあ、こまったわい、日が暮れちゃったわい。どうやどうや、はや帰らあぜ、くらんなると山んばが出るけのう……。 (これは、困ったわい。日が暮れてしまったよ。さあ、早く帰ろうよ、暗くなると山んばが出るからな。)[鳥取「山んばと馬子」]
- ・おじいさんもこのごろ酒が弱になんなつたがやあ。(おじいさんもこのごろ酒が弱くおなりだねえ。)[森田 2013]

〈丁寧形〉

断定形に「デス」を後接して「アカイデス」のような形になる。

- ・コノ トマトワ アカイデスヨ。(このトマトは赤いですよ。)

〈のだ形〉

断定形に「ダ」を後接する。本方言には「ノ」に当たる形式がないため、動詞と同じく「ダ」が直接つく。

- ・小僧、何がおかしいだ。(小僧、何がおかしいんだ。)[酒井「小僧の作戦」]

【形容名詞述語・名詞述語】

〈断定非過去形〉

断定非過去形は、「シズカダ」「ガクセーダ」のように「ダ」を後接した形になる。ただし、形容名詞

は「シズカナ」のように「ナ」を後接した形もとる。

- ・コノ ヘヤワ {シズカダ／シズカナ} ナー。
(この部屋は静かだなあ。)
- ・ア ソーカ テガ キヨーナケ オマエモカナ チサイノ デキルカ。(あ、そうか、手が器用だから、おまえもこんな小さいのができるか。)
- ・アノ ヒトワ マダ ガクセーダッテ。(あの人はまだ学生だつて。)

〈断定過去形〉

形容名詞・名詞ともに「ダッタ」を後接する。形容名詞の場合も、「シズカナッタ」「シズカナカタ」
といった形はとらない。

- ・サッキマデ シズカダッタノニ ニギヤカンナッタ。(さっきまで静かだったのに、にぎやかになった。)
- ・キョネンマデワ ガクセーダッタデ。(去年までは学生だったよ。)

〈推量形〉

形容名詞・名詞ともに「ダラー」を後接する。過去形に「ダラー」が後接すると、過去推量になる。

- ・アノ コロワ ガクセーダッタケド イマワ ナンサイグライダラーカイヤ。(あの頃は学生だったけど、今は何歳くらいだろうか。)

〈連体非過去形〉

形容名詞は「シズカナ」のように「ナ」を後接した形になるが、名詞の場合は格助詞「ノ」を用いて「ガクセーノ」のようになる。

- ・ココワ シズカナ ヘヤダ。(ここは静かな部屋だ。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、形容名詞・名詞ともに「ダッタ」を後接し、「シズカダッタ」「ガクセーダッタ」のようになる。

〈中止形〉

形容名詞・名詞ともに「デ」を後接して「シズカデ」「ガクセーデ」のようになる。

- ・イツモ ゲンキデ エーナー。(いつも元気でいいな。)

〈仮定形〉

「シズカナラ」「ガクセーナラ」といった形も使用されることがあるが、基本的には「シズカダッタラ」

「ガクセーダッタラ」のように「ダッタラ」を使用する。

- ・そがしょうむんなら、とまらせてひんぜるわい。(そうしようものなら、泊まらせてあげよ。)[鳥取「福がついたおとつつあん」]
- ・ガクセーダッタラ チョット ムリダナ。(学生だったらちょっと無理だな。)

〈否定形〉

「デナイ」あるいは「ダナイ」が後接し、「シズカデナイ/シズカダナイ」「ガクセーデナイ/ガクセーダナイ」のようになる。

- ・コノ ヘヤワ アンマリ シズカデナイ。(この部屋はあまり静かでない。)
- ・ガクセーダト オモットッタラ ガクセーデナイダッテイヤ。(学生だと思っていたら、学生ではないんだって。)
- ・そがいなことがあるもんかい。お前の女房が牛だなんて。立派な人間だないか。(そんなことがあるものか。お前の女房が牛だなんて。立派な人間じゃないか。)[稲田「狼の眼鏡」]

〈なる形〉

「ニ ナル」が後接するが、助詞の「ニ」は直後の音に同化して「シズカンナル」「ガクセーナル」のように撥音化する傾向がある。

- ・キューニ シズカンナッタナー。(急に静かになったなあ。)
- ・ウチノ マゴワ コトシ ダイガクシェーニ ナッタダッテイヤ。(うちの孫は今年大学生になったんだって。)

〈丁寧形〉

形容名詞・名詞ともに「デス」を後接して「シズカデス」「ガクセーデス」のようになる。

- ・コッチノ ホーガ シズカデスヨ。(こっこのほうが静かですよ。)
- ・コノ コワ ワタシノ マゴデスニ。(この子は私の孫ですよ。)
- ・アスコノ チョット イッタ トコロワ モー タンボダッタデス。(あそこのちょっと行ったところは、もう田んぼでした。)

〈のだ形〉

形容名詞・名詞ともに、のだ形がない、あるいは断定形と区別がない。本方言には「ノ」に当たる形

式がなく、動詞・形容詞の場合は「ダ」が直接ついて「カクダ」「アカイダ」のようになるが、形容名詞・名詞が述語の場合は既に「ダ」があるため、標準語でいう「Nダ」と「Nナノダ」の区別がないのだと考えられる。「ノ」がない他の方言においては、「Nダダ」のように「ダ」を重ねる方言があるが、本方言ではそのような形はみられない。

用例出典

大橋 1989：大橋勝男（1989）「日本語諸方言についての記述的研究（15）—鳥根県邑智郡川本町三原方言・鳥取県倉吉市八屋方言・兵庫県養父郡八鹿町朝倉方言について（その一）—」『新潟大学教育学部紀要』30-2

稲田：稲田和子（編）（1976）『日本の民話 61 鳥取の民話』未来社

川上：川上迪彦・三原幸久（編）（1978）『日本の民話 8 山陰』ぎょうせい

国分寺：日本放送協会（編）（1999）「鳥取県倉吉市国分寺」『全国方言資料 CD-ROM 版』国分寺出版

酒井：酒井董美（1996）『山陰の民話』渡部総合プリント

鳥取：鳥取県小学校国語教育研究会（編）（2005）『読みがたり 鳥取のむかし話』日本標準

森田 2013：森田富美子（2013）『暮らしの中の倉吉ことば—表現の型—』

参考文献(用例出典と重なるものは略)

室山敏昭（1982）「鳥取県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』国書刊行会

室山敏昭（編）（1998）『日本のことばシリーズ 31 鳥取県のことば』明治書院

森下喜一（編）（1999）『鳥取県方言辞典』富士書店（野間純平）